

(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善傾向にある。

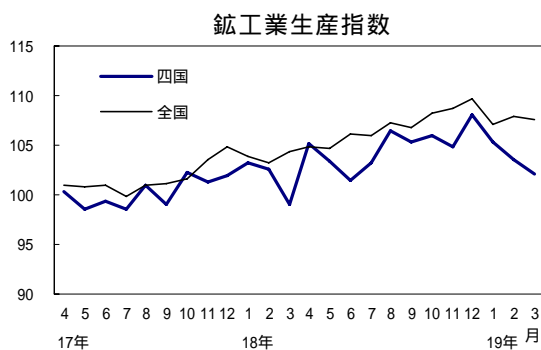
前回調査からの主要変更点

	前回（平成19年2月）	今回（平成19年5月）	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

パルプ・紙は、包装用紙や新聞巻取紙が減少したものの、新聞広告やカタログ等の需要により、印刷用紙や塗工紙が引き続き好調であったため、増加している。食料品・たばこは、お歳暮商戦で肉製品が好調であった前期の反動のため、減少している。電気機械は、半導体集積回路や蓄電池が不調であったことから、4四半期ぶりに減少している。化学は、医薬品やBTX（ベンゼン、トルエン、キシレン）が引き続き好調であったため、増加している。一般機械は、造船・鉄鋼業向け固定式クレーンなどが前期の反動で減少はしているものの、引き続きおう盛な需要があることから、堅調に推移している。



(備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成19年3月の四国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

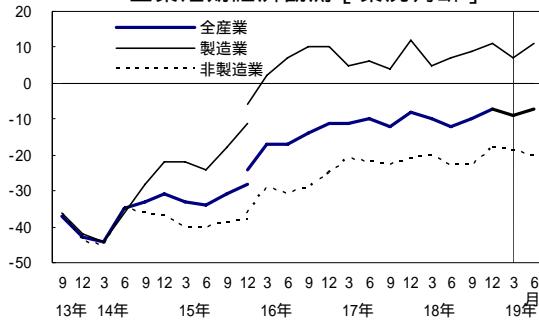
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
パルプ・紙	13.3	2.1	1.9	1.7	1.6
食料品・たばこ	13.3	0.3	5.2	6.4	1.0
電気機械	12.8	6.9	7.3	2.4	23.5
化学	12.7	1.1	8.1	4.3	9.3
一般機械	11.3	11.0	6.4	5.8	2.3
鉱工業	100.0	1.2	2.4	2.3	3.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

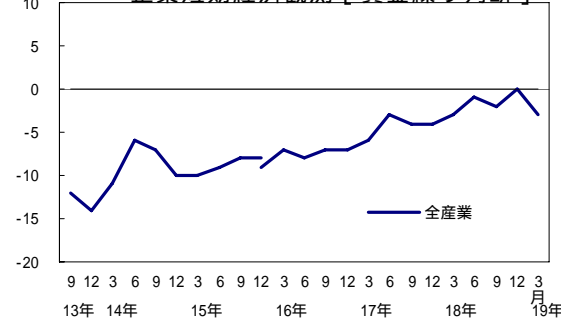
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



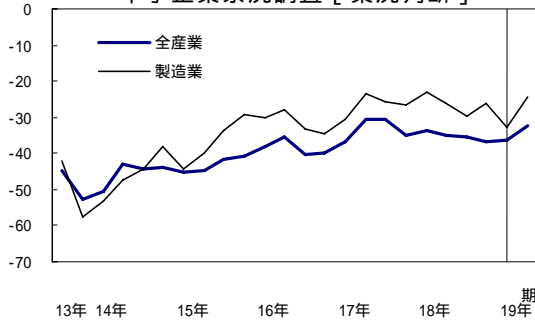
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「取引先の仕事の請負に動きが見られる。東日本より関西以西の景気が良く、その影響か、受注から納期までが短い傾向が見られた。先行車(あらかじめユーザーのニーズを先取りした車の事前製作)などの対応もあった(一般機械器具製造業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

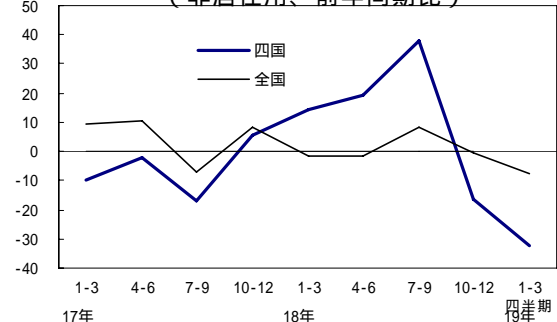
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)		
	18年度実績見込み		19年度計画
全産業	10.7	10.7	9.8
製造業	23.7	25.0	10.7
非製造業	1.1	2.0	8.9

(備考)[]は前回(12月)調査結果。

(%) 建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

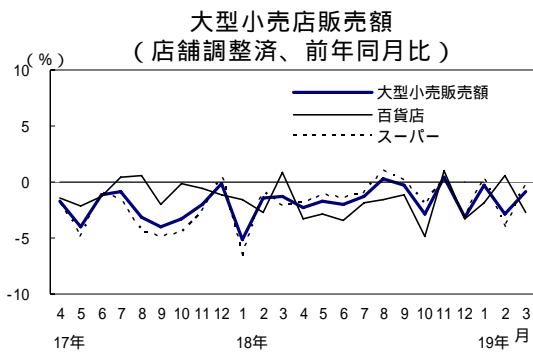
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、物産展などの催事により飲食料品が好調であったものの、気温が高めに推移したことから冬物セール衣料品が低迷したため、前年を下回った。2月は、貴金属や宝石などの高額商品が低調であったものの、改装効果などにより海外ブランド品が好調だったことや、バレンタインなどの催事効果で飲食料品にも動きが見られたことから、3か月ぶりに前年を上回った。3月は、中旬以降の冷え込みから春物衣料の動きが鈍かったことに加え、貴金属や宝石などの高額商品が低調であったことから、前年を下回った。

スーパーは、携帯ゲーム機本体やソフト等が引き続き好調であったものの、衣料品が低調に推移したことから、全体としては前年を下回った。

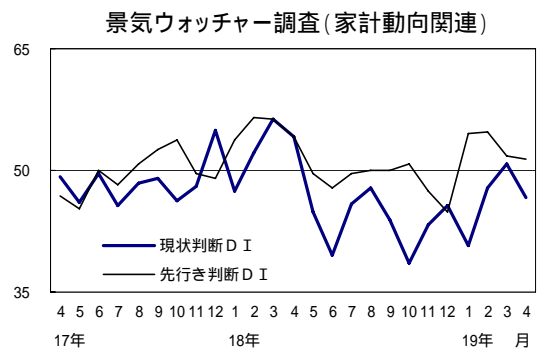
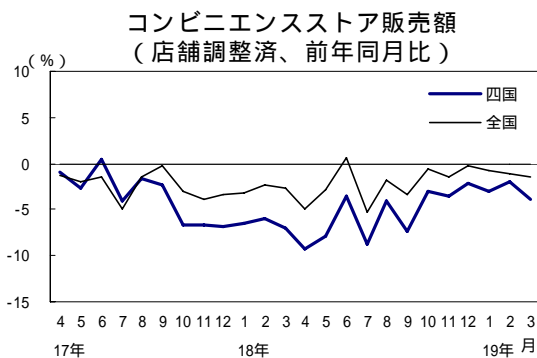
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「以前のような衝動買いはないが、自分が必要とする物はじっくりと選び、かなり高額なものでも買うという傾向が続いている。個人消費の変化がうかがえる(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	2.0	0.5	2.0	1.3
百貨店	3.2	1.6	2.5	1.5
スーパー	1.5	0.0	1.7	1.1
コンビニ	6.9	6.6	2.9	3.0
景気ウォッチャー	46.2	45.8	42.5	46.5

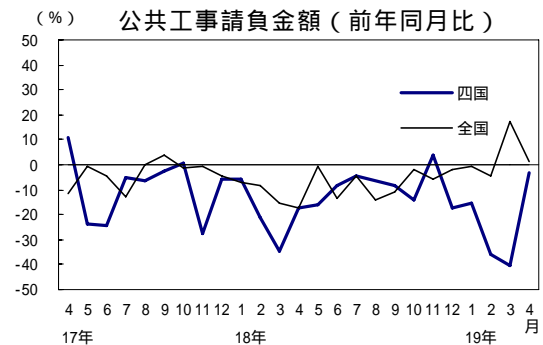
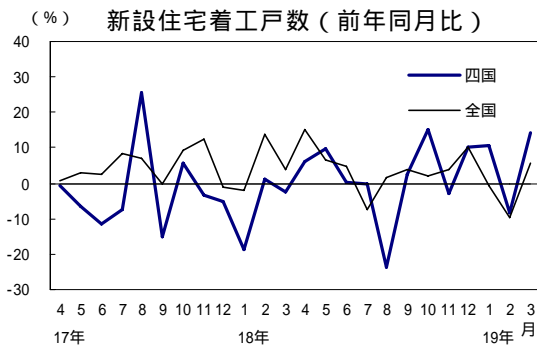
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

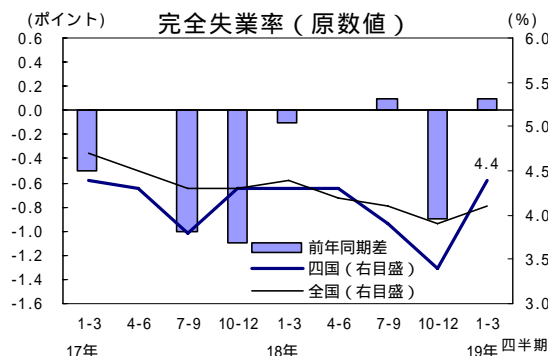
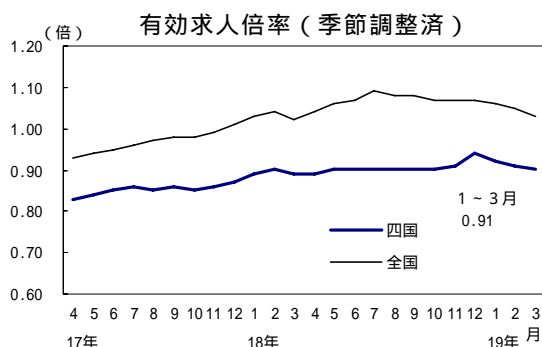


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

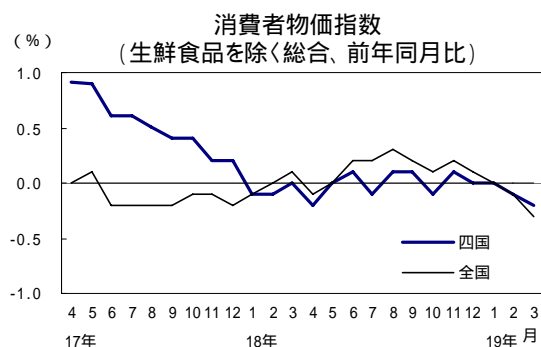
「年度末のピークが過ぎれば、3か月前とあまり変わらない（人材派遣会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、「各社とも、広告予算が減少している。特に、マスメディア離れの傾向があり、チラシやフリーペーパーといった安価な広告に走っている（新聞社 [求人広告]）」など、「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	89	111	93	79	25
(前年比)	11.3	44.2	43.1	5.3	19.4
負債総額	256	442	405	1,186	32
(前年比)	32.1	40.3	276.9	437.3	62.9



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・団塊の世代の退職による世代交代は着実に進んでおり、久しぶりに常連客が来ても、会社の同僚とではなく、子供、孫を伴ってである（一般レストラン）

<先行き>

・自転車通勤が増えた、給料が増えない、ボーナスがない、との声が多い（タクシー運転手）

景気ウォッチャー調査（合計）

